

【英語】

～ClassPad.net のテキストふせん・同時編集機能を活用する～

日本文学と英文学の繋がりについて考える授業
英語で書かれた夏目漱石の作品を通して、読むことの面白さを学ぶ。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：英語で書かれた日本文学の再翻訳を試みることで、言語を学ぶことと翻訳の面白さを伝える。

生徒向けの目標：英語から日本語へ翻訳する力を養うとともに、日本語らしい意識を考える力を身につける。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・生徒の理解促進：EX-word 機能を用いて信頼できる情報源から検索することで、英単語の正確な意味を知ると同時に、語彙のバリエーションを増やすことが可能。
- ・協働学習促進：同時編集機能を活用することで協働学習がスムーズに進み、効率化や理解の促進が期待できる。
- ・探究学習促進：EX-word 機能を活用しながら場面にあった翻訳を自主的に考えることで、探究的な個人活動の実践が可能になる。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1

授業の概要

・英訳版(1918年版)『坊っちゃん』を読む

①『坊っちゃん』のある部分をグループ(5-6人)で読む

②個人で日本語訳を考え、その後グループ内で共有

③各グループで最もよかった訳をクラス全体で発表
クラス内で最もよかった訳を投票で決定する

概要の説明

英文学者としての夏目漱石の経歴について簡単に紹介する。その後、彼の作品（『坊っちゃん』）の英訳版のある部分について、5～6人のグループで日本語訳を試みてもらい、最終的に日本語版との照合を行うことを説明する。

step2

<作品の紹介>

『坊っちゃん』
1906年に書かれた夏目漱石の小説。親譲りの無鉄砲で正義感の強い「坊っちゃん」。子供時代は家庭に疎まれたが、下女の清だけは彼の味方だった。東京の物理学校を卒業後、四国の中学校に数学教師として赴任する。そこで教頭の「赤シャツ」をはじめとする同僚たちと出会い、持ち前の曲がったことが大嫌いな気性から、次々と騒動を巻き起こしていく。他の漱石の作品に比べ大衆的であるため、漱石の小説のなかでも最も多くの人に愛読されている作品の一つであるといえる。

取り上げる作品の説明

授業内で取り上げる作品（時代背景やストーリーなど）に関して簡単に紹介する。読書経験や事前知識の有無による読解の差を生まないよう配慮する必要があるため、ここでの説明は必須。

『坊っちゃん』が書かれた時代背景やストーリーについては、テキストふせんで提示する

step3

<例>

Because of an hereditary recklessness,
親譲りの無鉄砲で
I have been playing always a losing game
私はいつも負し続けている
since my childhood.
子供の頃から
During my grammar school days,
小学生のとき
I was once laid up for about a week
私は一週間くらい寝込んだ
by jumping from the second story of the school building.
一度校舎の2階から飛び降りたことで

実践の準備

まずは『坊っちゃん』の冒頭部分を利用して、翻訳の作業を試みてもらう。step 4で個人作業を行う準備とするため、いくつかの訳例を紹介する。普段の授業で行っている英文解釈と同様に翻訳を行うことを強調し、生徒の活動に対するハードルを下げるように配慮する。

作品（短文）も訳例も、テキストふせんで提示する。

step4

〈個人作業〉
○次の文章を和訳してみよう！
(10分間)

〈注意事項〉
・意味調べにはEX-word機能のみ用いてよいものとする。
・インターネットは使用禁止！
・自分で作成した和訳はテキストふせんに書くこと
※EX-word機能を用いて調べた語は、ふせん化して翻訳を書くテキストふせんの近くに配置するとよい。
※10分間の個人作業後、グループワークへと移行

個人作業

英語版『坊っちゃん』の指定した部分を個人で翻訳させる。この際、EX-word機能のみ用いてよいものとする(インターネット上に完成された翻訳が掲載されている可能性があるため)。それぞれについて各自翻訳を考え、ふせんに書く。(10分間ほど)

英語版『坊っちゃん』の一部を抜粋したものをファイルふせんにし、授業支援機能を用いて生徒に共有する。そちらを元に、翻訳はテキストふせんに書いてもらう。
EX-word機能を用いて調べた際は、ふせん化して翻訳を書くテキストふせんの近くに配置させるとよい。

※Ex-word機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step5

〈グループワーク〉
①各自が作成した訳を共有
②最もよいと思う訳を決定する
「より良い翻訳にするにはどうすればよいか」という視点で話し合いを進めよう

③提出用の訳を作成する
すでに良い訳ができていれば修正なしでも可能

〈注意事項〉
・時間は25分
・時間内で終了したものを提出すること、未完成でも可

グループワーク

5～6人のグループを作り、step4で各自が行った作業をグループのメンバー同士で共有してもらう。それらをもとに、より良い翻訳にするにはどうすればよいかをグループで話し合わせ、最も良いと思われる翻訳の一つを決めさせたら(または作らせたら)、教員のデジタルノートに参加してもらい、用意されたテンプレートに訳を書き込ませる。ここでも使用できるのはEX-word機能のみである。最後に投票で最もよかったものを決めることも伝える。(15～20分間ほど)

授業支援機能を用いて、個人で作業した内容が書かれた各種ふせんをグループのメンバー同士で送信し合う。その後、代表者が作成したテキストを使い、同時編集機能を用いて各自の意見を反映させながら提出用の訳を作らせる。すでに良い訳ができていれば、新たに作らせなくてもよい。EX-word機能の使い方はstep4と同様である。
メンバー全員が納得できる訳が書けたら、教員のデジタルノートに同時編集機能で参加させ、テンプレートとして用意したテキストふせんに訳を記載させる。

※Ex-word機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step6

〈投票〉
○自分が最も惹きつけられたものを選ぶ
・挙手制
・自分のグループへの投票はなし

✨評価基準✨
・正しい日本語に訳されているか
・「物語らしい」表現になっているか
・物語の設定、時代背景を考えて訳しているか

投票・講評

教員のデジタルノートに書き込まれた各グループの翻訳を見て、自分が最も惹きつけられたものが書かれているものを考えさせ、挙手にて投票してもらう。なお、自分の班には投票してはいけない。最も得票数が多かったグループを発表した後、各翻訳案について教員が講評を加える。

教員は、各グループの翻訳が書かれたテキストふせんをスライドショーになるよう繋げ、順に生徒に読ませる。
講評を加える際も、同様に行うとよい。

step7

〈まとめ〉
英文解釈のコツ
○構造を把握する
・句を導くもの(前置詞など)や節を導くもの(接続詞など)を見つける

○細かく和訳する
・「一度に全文を」和訳しようとせず、細かく和訳して最後にまとめる

○日本語らしい言い換え表現を考える
Ex. hereditary 「遺伝性の、世襲の」
→親や先祖から受け継いだもの →「継譲りの」

まとめ・宿題

授業内容を振り返り、以下の場面では直訳と意識のどちらが求められやすいかを問い、その根拠を考えることを宿題とする。
・学術論文
・ビジネスシーン
・契約書

問いに対する回答と根拠をテキストふせんに記載させ、次回授業までに提出させる。

step8

次の文章は異なる人物によって訳された『坊っちゃん』の冒頭部分である。

A great loser have I been ever since a child, having a rash, daring spirit, a spirit I inherited from my ancestors. When a primary-school boy, I jumped down from the second story of the schoolhouse, and had to lie abed about a week.

このように同じ文章でも翻訳者が異なることで訳も大きく異なる！

○さまざまな場面で用いられている翻訳を探してみよう！

参考・補足

step3で扱った『坊っちゃん』の冒頭部分について、取り上げた英訳とは異なる英訳を用いて、日本語→英語への翻訳にも個性が表れることを示す。

『坊っちゃん』の冒頭部分を翻訳したもののうち、step3で提示したものとは異なる人物による訳を、テキストふせんで提示する。